

### ■塾長総括感想

談義の会は、実に深い内容でしたが、荏本先生のまとめで深められたと思います。何を目指した談義の会なのか、「目標」を役員の皆様とも、当日の会員の皆様とももっと共有できるようにオリエンテーションが必要かもしれません。

やりっぱなしではなく、一步一步目標に向かって前進したいので。

本年度の目標は次のとおりです。常にこれを皆で念頭に活動したいところです。

それが「連携」の基盤です。

「災害克服に向けて実現したい自助・共助・公助連携・新課題対応力の抜本的強化」

～東日本大震災 10 年、阪神淡路大震災四半世紀、関東大震災百年、最近の風水害や複合災害の教訓は生かされ、

対策は実現されているか?新たな災害課題も視野に、自助、共助、公助統合による防災・減災力の抜本的改善強化を展望する～

大川小学校で起きたことについては、仙台高裁主文に確定されたので、問題は、仙台高裁の判決「校長は事前に住民を説得してでも地域と避難計画を構築すべきだった。」への「答え」を私は皆さんと考えたかったところです。

私は、「地区防災計画をツールとして、全国津浦浦浦まで「防災地区」を定め、行政等が支援して策定を推進すること」がその答えだと考えています。2018年夏季シンポジウムの「一般化は？」の答えとして考え着的なことです。

「地区防災計画」は「防災塾・だるま」の中ではあまり聞かれない言葉です。

しかし、これからの防災まちづくりにおいては核となるツールであろうと思います。

「防災まちづくりコーディネーター」とは、「地区防災計画」を「参画と連携」で構築できる人材

- ・原案を立案
- ・ファシリテーションで組織と関係諸機関の共通理解と連携を確立
- ・アクションプランで計画を実行
- ・PDCA サイクルで適正化

ができる人材であると思います。

役員の皆様は守備範囲はそれぞれでも、皆様この力をおもちの方々と思います。

講演要旨を添付します。

「地区防災計画推進」については、今後皆さんに提案していきたいと思いますのでリンクの資料をはじめ、事例集等研究していただければと思います。

### ■各サロンメンバーの感想

佐藤氏講演「あの日失われた命に意味づけをするのは、生かされた私たちの役割」

●佐藤講師の話は震災遺構となった大川小学校の現地のレポート報告もあり 10 年前の先生と生徒の尊い命を奪った状況を再確認できた。(B サロン)

<津波への対応>

●津波避難に関しての教訓になった。(A サロン)

●津波ハザードマップの問題点を教えてくれた(安全情報ではない)(A サロン)

だからと言って水平避難はどこまで逃げればよいか不明

●浸水エリアの小学校は津波の避難訓練をきちんとされているが、浸水エリアぎりぎり外れている小

●学校はほとんど津波避難訓練がされていない。(A サロン)

→どういふことをしていたら助けられたのかしら。

校長が在席していたら。避難訓練をしていたら。防災マニュアルがあったら

●あの日の津波を想定できることができなかった。これからの想定の基本が変わった。(C サロン)

津波や土砂災害、火災に限らず、災害時パニックになった時の自分を考えてみたい。

●橋があったために、流れてきた瓦礫や流木がせき止められて、氾濫につながった。今後、ハザードマップを作成する際には、あらゆる可能を考慮すべきだ。(D サロン)

#### <学校防災>

●どうすれば助かったか。「山は命を救わない。」前例のない事態にどう向きあうか。「判断と行動」が命を救う。という佐藤講師の言葉に重みを感じた。(B サロン)

●佐藤講師の講義で「この犠牲を仕方なかったことにしない、無駄にしない」という言葉があったが、それには校長不在で校庭にとどまった「空白の 57 分間」の経緯を明らかにしなくてはならないと思う。(B サロン)

●学校の体制が問題だったのではないか。(C サロン)

\* 近隣の人たちも、津波が来るから早く逃げなさいと言いに来た人もいた。この時逃げなかった人が津波に呑みこまれた。早い判断が大切。

\* 大災害が起きるとパニックになる。日頃から災害を想定して備えをする必要がある。

#### <もっと聞きたかった>

●石巻教育委員会の生き残った教師や生徒への聞きとり調査報告のあいまいさや文部省が主導した第三者委員会の件、裁判についても、もっと講師に時間をとってお聞きしたかった。

●被災地の釜谷地区では大川小学校以外の地域の住民の犠牲者も多かった。(B サロン)

「釜石の奇跡」(生徒無事避難)と「鶴住居防災センターの悲劇」の事態もあり、石巻市の具体的なこれからの防災教育と、地域の住民と一体となった防災対策についても、突っ込んで講師に質問をした上で、理想の「学区連携防災構想」提案に繋げてほしかった。

#### <継承>

●家族で大川小に行った時のことを思い出しながら聞きました。分かりやすくシンプルで心にしみました。(C サロン)

防災は、地味に聞こえるがとても大切で、大変なことだと言いつける必要性を考えた。

#### <総合的まちづくり構想>

●地区で学校・地域住民・行政で、津波の避難場所づくりなどを話し合っていなかった。それはどの地域の現状として言えることだが、地区で「防災まちづくり協議会」を開催するシステムや明文化した「地区防災計画」を策定、運用していく必要がある。(鷲山)

●チャットにあった大川伝承がダウンロードできるので、じっくり見ようと思います。(C サロン)

●実体験に勝るものはない。現地に行って、見て、被災した人の話を聞く事が大切だ。(D サロン)

●「判断し・行動できる子どもを育てる」という点に共感した。(D サロン)

\* 3.11 を体験した子どもたちが大人になって、語り継いでいく時代が来ている。

それによって少しでも、防災意識に変化が起きる事を期待したい。

- 大川小学校は、地域のモデル校として斬新な校舎が出来ていた。だが、過去にあった津波(チリ地震など)の経験者がいなかったのも、それが活かせなかったのでは？(D サロン)
- 「防災はハッピーエンドに(恐怖から希望へ)」という言葉が印象に残った。(D サロン)

< 鷲山氏講演(C サロン) >

「教訓を生かした」防災まちづくりはかなり実現できる。法的整備で全国標準に

- 素晴らしい講演ですが、具体的な行動がイメージできない。(A サロン)
  - ー小学校の校長へのアプローチ、自治会長へのアプローチ
- 「災害を克服できる防災まちづくり・防災教育」の未来像を考える(C サロン)
  - \* 改めて佐藤さんの話を聞いて、自分の考えていることが間違っていないかった。太尾小は、水害の問題もある。浸水地域だが、ハザードマップ、地区防災計画が必要。太尾小もこれから考えたい。
  - \* 上大岡の方も浸水地域になっている。
  - \* 日赤の仕事をしているが、鶴見区、緑区、都筑区等はかなり進んでいるが神奈川区は活動が少ない。区によって力の入れ方の温度差がある。
  - \* 横浜市の避難所は地震対応の場所。拠点は遠いので自治会館にしたいと行政に進言しているが考えてもらえない。全体のコミュニティが必要。避難所の対応は風雨、地震で違う。地域で手上げ方式で避難所を作っていく必要があるのではと思っている。
  - \* 避難所の運営。開錠の確認。子供の引き取り方法の確認。地域との連携。が特に大切。
  - \* 子どもたち・保護者・地域・行政・学校・企業とかの連携が必要。
  - \* 地区防災計画があるが→教育委員会との連携も必要。
  - \* 「防災塾・だるま」として、「地区防災計画」という理念の理解と推進への取り組みが必要。C サロンの皆様と具体的に検討し、提案していきたい。(鷲山)

< 全体運営関係 >

- 佐藤講師の資料があれば話し合いの中でみんなの意見がもっと深く話し合えたと思います。(C サロン)
- 講演要旨をあらかじめ配布して欲しい(それによって参加を判断することもあるだろう)(D サロン)
- 佐藤講師からの問題提起(教育体制や裁判等)の時間をもっと取って欲しかった。(D サロン)
  - 鷲山先生の話は別の機会にやれたら(あの30分はもったいない)。
  - 談義の会のチラシを見た人は、佐藤講師の話がメインと思ったはず。
- 佐藤先生のお話をもっとじっくり伺えるとよかった。(C サロン)
- 時間が足りない(A サロン)

以上